

穂学



令和4年度

広州日本人学校 学校便り

[No.18]

令和4年12月23日(金)

発行責任者 校長 加藤康徳

「新たなコロナ禍の中で2学期が終了しました。」

11月から始まった学校の休校（登校できない状況）から一カ月半が過ぎました。12月は新型コロナウイルス感染症に関するさまざまな制限が緩和され、ここ数年大変な思いをしてきた「日常生活からの隔離」から解放された月ではありましたが、逆に今までにない感染のリスクに悩まされる月ともなりました。現地校も含めた全ての広州市内の学校は、オンラインで授業が行われ、子ども達や保護者の皆様にも大変な負担がかかっていると考えております。早くこのような状況が好転し、通常の授業が再開できることを願うばかりです。

ただ、このオンラインによる授業は3学期の始業式が始まって、まだしばらくは続くことが既に市教育局の指示で決まっております。（登校開始は春節休み明けからの予定）このように今は大変な状況ではありますが、子ども達にはどのような状況下であっても「生き抜く」という意識を持ってもらいたいです。明日から冬休みが始まります。基本的なことではありますが、今年はコロナ禍ということで特に、自分の生活を見直し、生活のリズムを整え、毎日少しずつでもいいから取り組めること、今しかできないこと、絶対にやらなければならないことなど、家の人ともう一度しっかりと話し合っ、有意義な3学期を迎えてください。3学期は1月5日から始まります。オンラインの授業では時々私も様子を見るために会議に入ることがあります。その時にまた子ども達の素敵な笑顔を見たいと思っております。

今年一年の保護者の皆様のご協力に感謝を述べ、寅年である2022年の最後のご挨拶とさせていただきます。良いお年をお迎えください。

「感染症の対応の中で大切にしたいこと」

<基本的な感染防止対策>

○基本的な感染防止対策の徹底

- ・手洗い、マスク着用、咳エチケット、ソーシャルディスタンス（密集を避ける）
- 検温、換気、健康状態のチェック、消毒の徹底
- 規則正しい生活習慣を身に付ける。（体調が悪いときは家でしっかりと静養する。）

<偏見や差別を許さない心の育成>

○感染者・濃厚接触者への差別の禁止

誰が、いつ、どこで、感染してもおかしくは無い状況がしばらく続くと思われま。学校では日頃から、「自分の命は自分で守る」「お互いに助け合う」「お互いを尊重し合う」という三つの基本的な考えを子ども達に伝えております。この冬休みは各ご家庭でもこの考えに基づいた行動をしっかりと実践して頂きたいです。よろしく願いいたします。